ペンタトニックの共通項から，さまざまなスケールを導き出せ！

目的 小節ごとにスケール・チェンジする場合，ぎこちないフレーズになりがち。そこで，ペンタという弾き慣れたツールから，各スケールを導いてみよう。

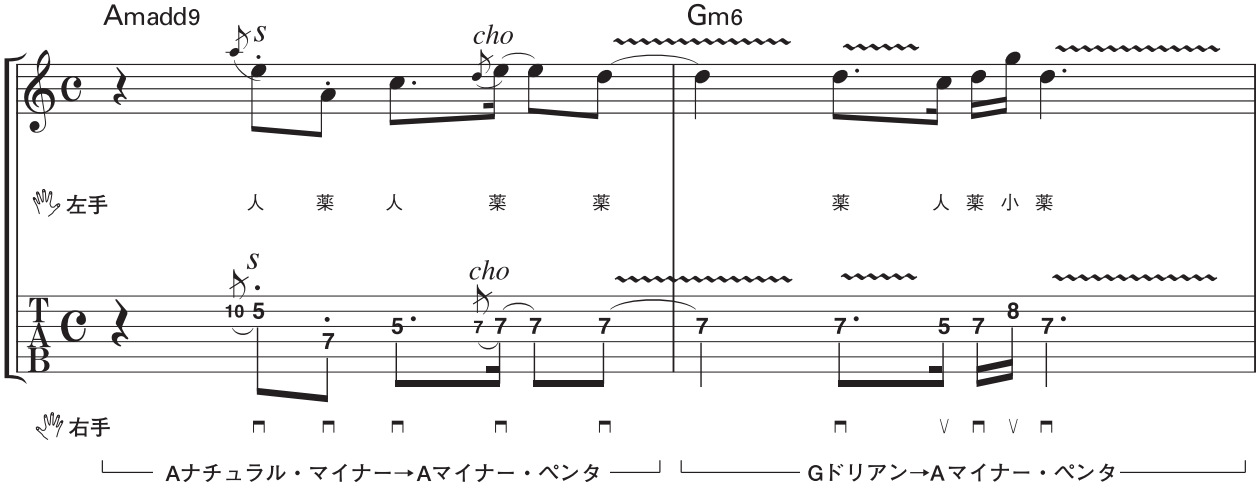
使い所 さまざまなスケールを用いてスムーズなプレイをしたい場合

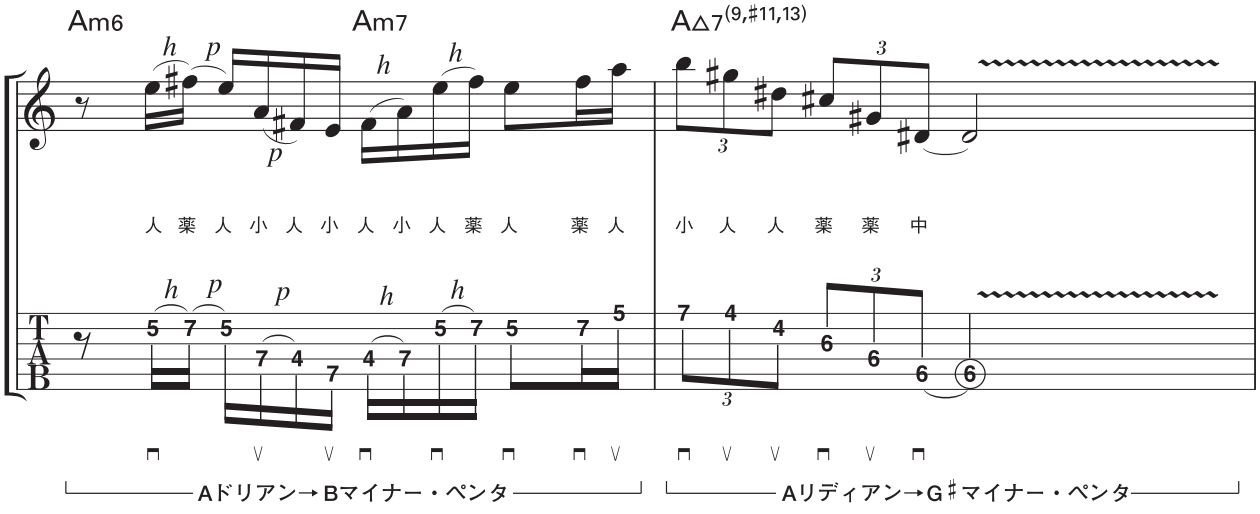
Tempo=80

模範演奏 CD Track 31

カラオケ CD Track 80

Key = Am





原因の究明

- ☐ リディアン・スケールとペンタの関係がわからない
- ☐ オルタード・スケールとペンタの関係がわからない

効果

さまざまなスケールがペンタ感覚で弾けるようになる

ポイント解析

公式:ドリアン=1音上のマイナー・ペンタ（□m7, □m6で使用）

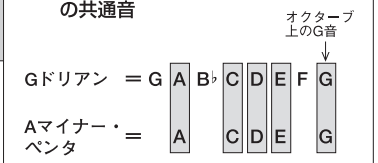
ドリアンを使う場合，1音上のマイナー・ペンタで代用できる（右図）。例えばGドリアンを弾きたいとすると，Gに対して1音上のAマイナー・ペンタでもOK（2小節目参照）。

右手 LEVEL 2

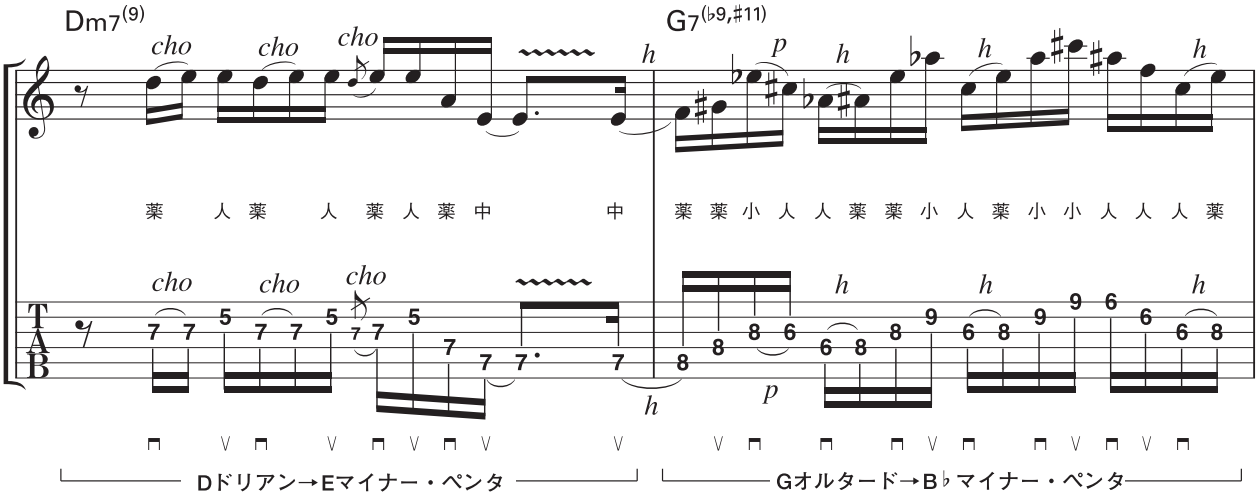
左手 LEVEL 2

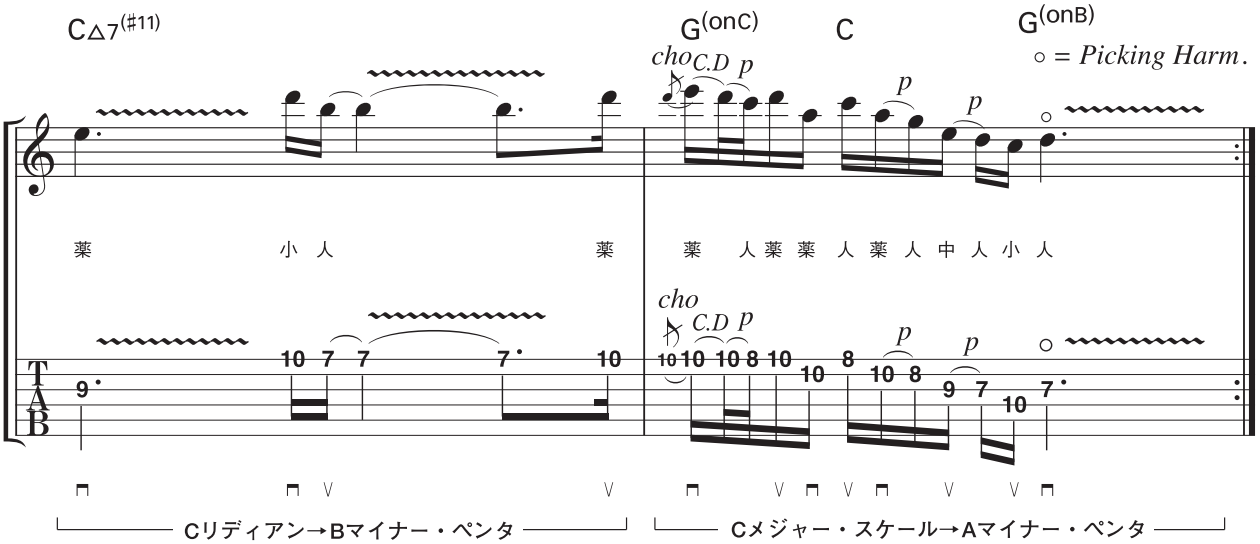
スリル度 LEVEL 3

図：GドリアンとAマイナー・ペンタの共通音



Aマイナーペンタの音がGドリアンにすべて含まれている！





公式が導き出せない人は ▶ P58を熟読！

公式が導き出せない人は ▶ P59で補習！